

昭和47年7月豪雨災害の概要

昭和47年(1972年)7月9日から降り始めた梅雨前線の影響による強い雨は、断続的に12日まで続き、江の川上流域では特に11日に集中して強雨となりました。各地の時間雨量は、西城川油木観測所で11日に46mmを記録したのを始め、三次、千代田で40mm以上の記録となりました。また、9日9時~12日9時までの3日間総雨量は千代田420mm、三次430mm、西城430mm、津名350mmで、江の川および西城川上流部で多くの降雨量を記録しました。

7月10日~12日の江の川上流域における出水状況は、ピークが繰り返す2山型の性状を示しています。これらは記録的な豪雨のため、江の川・馬洗川・西城川ともに11日午前0時頃から水位が急激に上昇を始め、1回目のピーク時にほとんどの地点で警戒水位を超えることとなりました。

水位はその後下降するかと思われましたが、11日18時頃再び上昇に転じ、南畑敷を除く地点が軒並み1回目を上回る水位を記録しました。これら2回の出水による最終到達水位は、尾関山13.20m、南畑敷6.40m、三次6.60mなど、従来の記録を大幅に上回るものとなりました。

このため、流域の被害は甚大となり、三川が合流する三次市街地においては、馬洗川左岸十日市地区の2箇所では堤防が溢水破堤、右岸の三次地区他各所で堤防溢水という状況となり、旧三次市では床上浸水以上の被災世帯が3,464世帯、被災者概数は16,871名となるなど、各地に大きな被害をもたらしました。

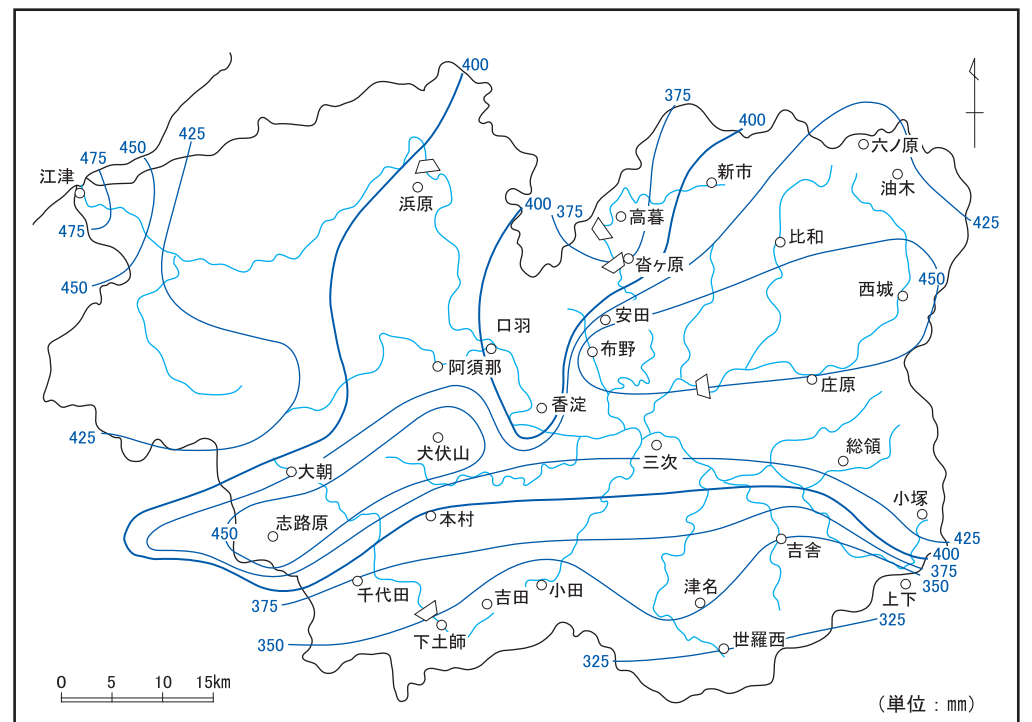


図-1 昭和47年7月9日9時~12日9時の降雨量分布

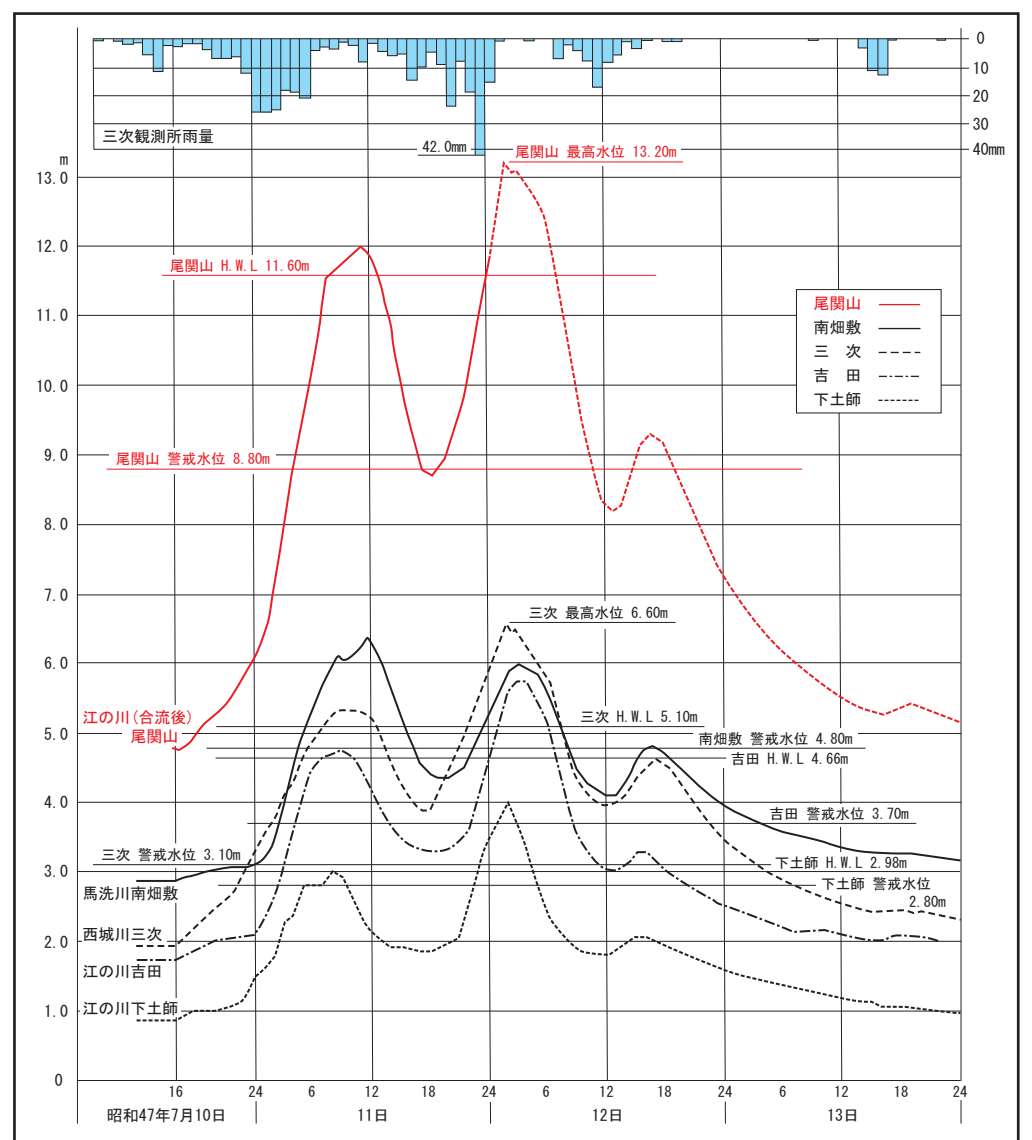


図-2 昭和47年7月豪雨の出水記録

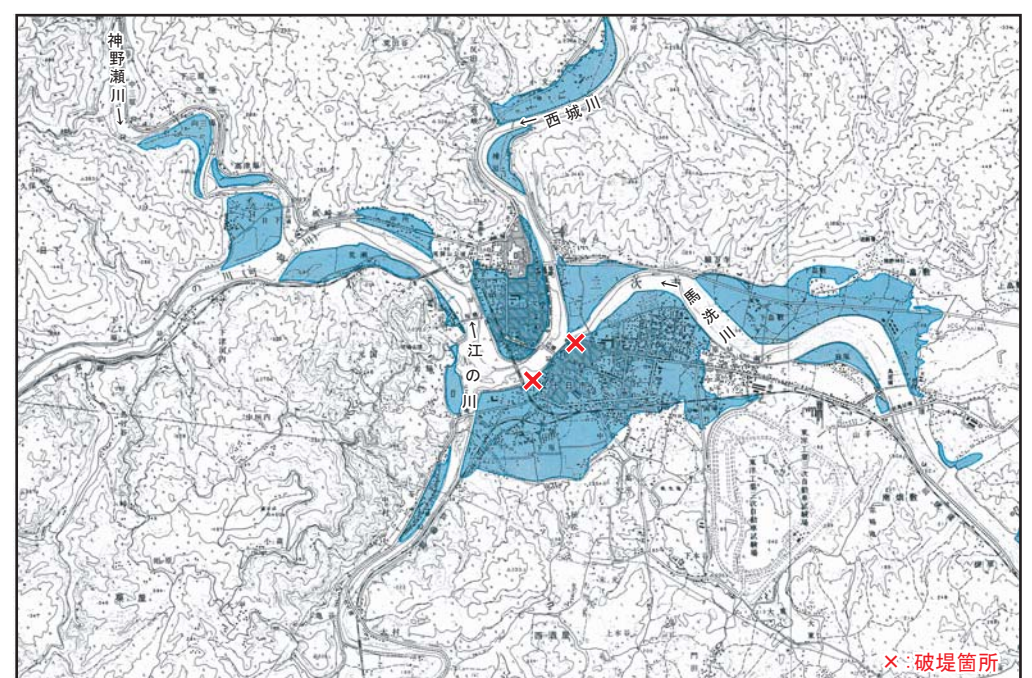


図-3 昭和47年7月豪雨の浸水状況(三次市街地)

被災前と現在の三次市街地

被災前（昭和45年）



現在（平成20年）





巴橋

← 馬洗川

三次市十日市地区 馬洗川の破堤箇所



三次市十日市地区 市役所前通り (三次市提供)



市役所庁舎屋上から東側を望む (三次市提供)



市役所庁舎中庭 (三次市提供)



馬洗川の決壊で被害の大きかった上本町商店街 (三次市提供)



三次市十日市地区 孤立した人を救助するためロープを渡す (三次市提供)



三次市十日市地区 自衛隊によって屋根から救助される住民 (松田一氏提供)



三次市十日市地区



三次市三次町寺戸地区 (三次市提供)



三次市三次町太才地区



江の川 →

冠水する栗屋橋 (三次市提供)



江の川 →

落橋しかけた栗屋橋 (三次市提供)



中央橋

江の川 →

三次市上志和地町 (中田静雄氏提供)



↑
三次

安芸高田市甲田町瀬戸地区 JR芸備線 (安芸高田市提供)



↑
江の川

安芸高田市甲田町上甲立 (安芸高田市提供)

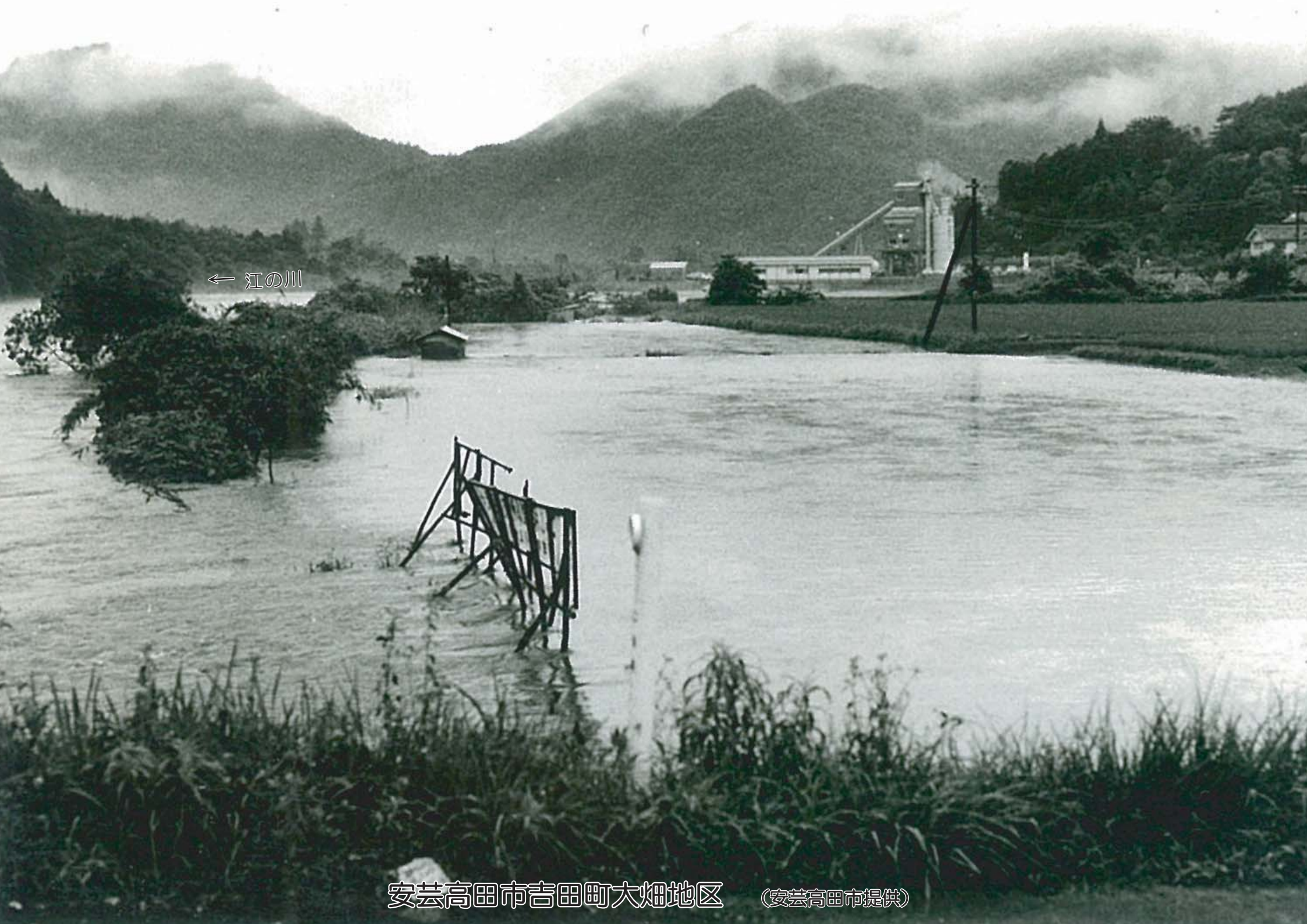


安芸高田市甲田町上甲立 旧国道54号



← 三次

安芸高田市吉田町大浜地区 国道54号



← 江の川

安芸高田市吉田町大畑地区

(安芸高田市提供)



↑
三次

安芸高田市吉田町内堀地区 国道54号



江の川 →

安芸高田市八千代町下土師地区 旧久保橋



安芸高田市高宮町梶矢地区



江の川 →

三次市作木町香淀



江の川 →

三次市作木町港地区



三次市作木町港地区



三次市作木町港地区